

平成30年度第1回かわさきパラムーブメント推進フォーラム

平成30年11月14日

- 1 日 時 平成30年11月14日(水)10時～12時05分
- 2 会 場 川崎市役所 第3庁舎18階 大会議室
- 3 出席者
 - 【委員長】 福田市長(委員長)、成田委員(共同委員長)
 - 【顧問】 中森顧問、細倉顧問
 - 【委員】 大塚委員、小倉委員、菊地委員、栗山委員、須藤委員、瀬戸山委員、多田委員、丹野委員、土岐委員、山田委員、横島委員
 - 【事務局】 加藤副市長、鈴木市民文化局長
(市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室)
原室長、井上担当課長、藤原担当課長、鴻巣課長補佐、
富山担当係長、太田担当係長、菅原職員、田中職員
市民文化局コミュニティ推進部 阿部部長
市民文化局市民スポーツ室 寺沢室長
市民文化局市民文化振興室 和田室長
健康福祉局障害保健福祉部 吉川部長
教育委員会学校教育部長 市川部長
- 4 議 題
 - (1) 今年度の主な取組について
 - (2) かわさきパラムーブメントにおけるレガシーについて
 - (3) 東京大会における英国事前キャンプ受け入れに向けた調整状況について
- 5 傍聴者 0名

6 会議内容

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成30年度第1回パラムーブメント推進フォーラムを開催させていただきます。

議事に入るまでの間、進行は私、原のほうで担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、本日のフォーラムでございますけれども、公開となっておりますので、傍聴を許可しております。あらかじめご了承くださいと存じます。

また、会議につきましては、発言内容を記録いたしまして、発言者の氏名等も含めまして、後日、市のホームページで掲載いたしますので、よろしくお願いいたします。

次に、配付資料を確認させていただきたいと思います。次第に記載した配付資料を確認させていただきます。

次第の後ろに座席表、その後ろに委員名簿、その後ろに運営委員会の要綱、次にA3の資料1、続きまして、A3で資料2、同じくA3で資料3がお手元にご配付されているかと思っております。その他もろもろ、チラシ等がいっぱいあるので、それは割愛をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

特に不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、本日の出席委員は、委員名簿のとおりでございますが、推進フォーラムの委員につきましては、皆様、再任していただいた方、また、新たに顧問・委員になられた方がいらっしゃいますので、ご報告をさせていただきたいと思っております。

新たに顧問・委員として、4名の方にご就任をいただいております、お名前をご紹介しますので、一言ご挨拶いただければと思います。

まず初めに、公益財団法人日本オリンピック委員会事務局長の細倉顧問でございます。

【細倉顧問】

細倉です。よろしくお願いいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

続きまして、市立長沢中学校校長の栗山委員でございます。

【栗山委員】

長沢中学校の栗山でございます。よろしくお願いいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

続きまして、公益財団法人川崎市文化財団理事長、多田委員でございます。

【多田委員】

おはようございます。多田でございます。よろしくお願いいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

なお、ブリティッシュカウンシルのアーツ部長でございます、湯浅委員にも新たに委員に就任していただいておりますが、本日もご欠席でございます。

その他、杉山委員、中澤委員、中村委員、山崎委員がご欠席のご連絡をいただいております、遠藤委員につきましては、ちょっと来るのがおけているのかなというふうに、ございません。

以上でございます。

続きまして、4月より私どもの担当副市長がかわりまして、加藤となりましたので、加藤副市長のほうから一言、ご挨拶いただければ。

【加藤副市長】

加藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

本日、同席をさせていただきます。また、同じく4月から、私どもオリンピック・パラリンピック推進室の事前キャンプ担当課長が藤原となりましたので、一言ご挨拶をお願いします。

【藤原オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

藤原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

事務連絡は以上でございます。

それでは、初めに福田市長のほうから、皆様にご挨拶を申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【福田市長】

皆さん、改めまして、おはようございます。お忙しいところ、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

今ご紹介があったとおり、新しく顧問・委員になっていただいた方を含めて21名という体制で、よろしくお願ひしたいと思っています。

オリンピック・パラリンピック東京大会まで2年を切っているということで、だんだん機運が高まってきていると思ひますが、それに向けて、その先にも向けて、ぜひみんなで、このパラムーブメントというのをしっかり取り組んでまいりたいと思ひております。

今年度になってから第1回目の会議になるわけですけれども、また成田共同委員長がすばらしい快挙ということで、今年8月のパンパシのところでは日本代表としてご活躍されて、先月10月にはアジアパラのほうで、混合のリレーで金メダル、そして、個人でも3つの銀メダルということで、ますます進化をやめない、とめない共同委員長でありますけれども、こういったご活躍とともに、ほんとうに私たちにとっても大きな誇りだと思ひております。また後ほど、ご挨拶の中で報告をいただきたいと思ひますが。

それから、今日はまだ資料としてお配りしておりませんが、後ほど追加で、これまで皆さんがご提案・ご意見をいただいたものが、どのように取り組まれているのか、進捗しているのかということ、資料としてお配りをさせていただきたいと思ひます。せっかく皆さんにいただいたご意見というものをしっかりと着実に形にしていく、そしてなるべく、まだまだでありますけれども、市民を巻き込んでいくという運動に展開してまいりたいと思ひております。

今日は3つの議題があります。なるべく皆さんからのご意見をいただきたいものですから、3つの議題を10分以内で説明させていただいて、皆さんからの活発なご意見をいただくということにさせていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

ありがとうございました。

続きまして、共同委員長でございます成田委員長のほうから、ご挨拶をいただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【成田共同委員長】

皆さん、おはようございます。

今、市長からの報告にもありましたが、10月のアジア大会では、個人戦では全て銀メダルで、中国の選手にやられてしまったんですけど、インドネシアという国ではいろいろな問題も多々あって、まず、ペットボトルのお水でしか歯も磨いちゃいけないとか、ご飯

も気をつけなさいとか、バスでそれぞれの会場に行くんですけど、そのバスの乗り場が1カ所しかなくて、全部の選手がそこに集まってしまうので、すごい大問題が起きたり、今まで参加した中では、いろいろな意味で悪条件があったんですけど、でも、その中で結果を出すことができたのはよかったかなと思います。

そして、カワサキハロウインのほうでも審査員を務めさせていただいて、一日、いろいろな触れ合いを見ることができて、帰ってから渋谷のハロウインのニュースを見て、ああいうことが起きてしまっていたのがすごく残念だったんですけど、カワサキハロウインは、みんなが一人一人楽しんでいるということがすごくわかって、また、あめちゃんを用意している人たちもいっぱいいて、子供たちに配っていたり、触れ合うことを見ることができて、私にとってもすごく有意義な一日を過ごせました。

なので、2020年に向けていろいろな形で、まだまだ発信していかなくてはいけないことがあるんだなということを思いましたので、どうぞ皆さん、よろしくお願いします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

ありがとうございました。

本会議の進行につきましては、委員長でございます福田市長に務めていただきますので、よろしくお願いいたします。また、成田委員長につきましても、会議進行を補助していただけるとお思いますので、あわせてお願いいたします。

それでは、福田市長、よろしくお願いいたします。

【福田市長】

それでは、資料1、今年度の主な取り組み状況について、ご覧いただきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

オリンピック・パラリンピック推進室の井上でございます。私のほうからご説明をさせていただきます。

1ページ目でございますけれども、最初に1番、パラスポーツやってみるキャラバンということで、障害者スポーツの体験講座を小学校や特別支援学校、また、地域の寺子屋で実施するものがございますけれども、実際に体験することで、パラスポーツへの興味ですとか障害者への理解につなげていこうというもので、今後の予定としましては、表にございますとおり、公立小学校になりますけれども、2020年度までに全ての学校、114校で実施するという予定でございます。

2番のかわさきハロウィンにつきましては、後ほど、土岐委員のほうからご説明をいただきたいと存じます。

右側へ移りまして、3番でございますが、昨年度、成田共同委員長をはじめ、中澤委員ですとか杉山委員からもアイデアを出していただいたものでございますけれども、飲食店などにパラムーブメントのロゴのステッカーを張って、そのお店が対応できるバリアフリーの取り組み、例えばハード面で、段差がありませんよとか多目的トイレがあります、また、ソフト面では、英語対応オーケーとかベビーカー歓迎、ミルク用のお湯あります、ハラル対応オーケーとか、そういったことをステッカーに表示をしまして、お店に貼りましょうという取り組みです。

昨年度、ぐるなび様との共同事業として、市内20店舗のバリアフリー状況を調査しましたけれども、今後、新たに調査を実施しながら、ステッカーを作成して、事業を展開していく予定でございます。

なお、資料の下にありますように、本市は今年5月に、共生社会ホストタウンとして国に登録をされましたけれども、この事業は、その中のモデルプロジェクトとして採択をされているところでございます。

めくっていただいて、4ページをごらんいただきたいと思います。

4番、参加型アートイベントということで、こちらは、等々力硬式野球場の工事用の仮囲いの壁にみんなで絵を描きましょうというイベントで、先月13、14の2日間、実施しまして、参加者は、小学生を中心に障害者の方にも参加いただきまして、大変好評で、当初予定していた倍の長さ、写真にございますけれども、29メートルの作品が完成しました。

絵のほうは、共生社会ですとか多様性をテーマに、空と海がまざり合って、魚が空を泳いでいたり、逆に昆虫が海にいたり、一緒に共存している様子を描いております。仮囲いが撤去される2020年まで、このまま残される予定で、今回の検証を踏まえまして、翌年度以降も開催したいと考えているところでございます。

5番の「Color'sかわさき展」の開催は、本市と文化財団が連携している事業でございますので、こちらも後ほど、多田委員のほうからご説明いただきたいと考えております。

次に、6番の市民参加（パラムーブメント・アクション）ということでございますが、パラムーブメント、あるいは、英国のおもてなしといったものにつきまして、市民の方に

主体的に参加をしていただくという取り組みでございますが、具体的には、今月26日を皮切りに市内4カ所の会場で、来年3月までに計4回の市民講座を開催します。

例えば、市民活動や地域活動に興味はあるんだけど、なかなか積極的には行動に移せていない、そういった潜在的な意欲のある方をターゲットとしまして、パラアンバサダーになっていただきまして、自分のやりたいことをマイプロジェクトとして実践していただくというものでございます。

1ページおめくりいただきまして、5ページをごらんください。

左上ですけれども、前回のフォーラムでもご報告させていただきましたけれども、今年3月に、「かわさきかってにおもてなし大作戦」と題しまして、キックオフのワークショップを開催しました。その後、既に地域で活動している方にシニアパラアンバサダーとなっただきまして、7月、8月で、障害者の方や外国人の方にも参加いただいてミーティングを行いまして、10月には、市民講座に向けた説明会イベントを市内3カ所で行いました。

そして今月、市民講座を、川崎会場、小杉・新城会場、溝の口会場、新百合ヶ丘会場の4カ所で実施をしまして、さらにそれぞれの会場で3回、また、3月には合同で開催をする予定です。そこで仲間をつくりながら、パラムーブメントに関する、自分のやりたいマイプロジェクトをそれぞれ考えていただきまして、実際に行動に移していく、そして、市も支援をしながら活動を広げていくという取り組みでございます。

次に、6ページをごらんください。7番のバリアフリーマップの改定ということでございますが、詳細は次のページになりますので、もう一枚おめくりいただいて、7ページをごらんください。

こちらは前回のフォーラムでもちょっとご紹介させていただきましたが、現在の川崎市バリアフリーマップというのが平成23年、今から7年前に、施設のバリアフリー情報のみについて、市域分を1冊の冊子にまとめたものとなっております、また、市のホームページに、「ガイドマップかわさき」というコンテンツがあるんですが、一応そこでも見られるようになっておりまして、右側のバリアフリーマップという画像があると思うんですが、こちらが現在のものでございます。ですが、現在まで一度も更新がされていないというところが現状でございます。

そこで、2番、改定の考え方なんですけれども、まず、施設だけではなくて、経路の情報が重要だということで、右下に会津若松市のバリアフリーマップの事例がございますけ

れども、このような形で経路情報と施設情報の両方を「ガイドマップかわさき」に掲載して、それを出力、印刷することで冊子が不要となって、無駄のないマップ更新を実現しようというところで考えているところでございます。

具体的な取り組み、3番でございますけれども、国交省の自治体施策連携の実証に応募しまして、選定をされましたので、まず今年度は、最も施設数が多い川崎駅周辺地区のマップを改定して、「ガイドマップかわさき」で公表するという予定でございます。また、改定に当たりましては、障害者の方なども含めました、まちづくり連絡調整会議のほうで意見を反映させまして、オープンデータ化して、本市と国交省のホームページで公表する予定でございます。

すみません、1ページ戻っていただきまして、6ページの8番、エレベーター優先表示ですが、現在、空港ですとか駅といったところは表示が義務化されているんですけれども、その他の場所は努力義務になっておりまして、このたび、市が管理する駅の自由通路ですとか跨線橋、ペDESTリアンデッキといった市内約30カ所のエレベーターに、こちらにあるようなピクトグラムを使った、障害者、高齢者等の優先案内の表示を行ったところでございます。

次に、8ページをごらんいただきたいと思います。ここからがプロモーションの取り組みについてでございます。

まず1番でございますが、かわパラ2018ということで、こちらは昨年を引き続きまして、夏、8月にラゾーナ川崎のルーファ広場で開催しました。今年は室内会場も拡大して実施をしまして、元サッカー日本代表の前園さんを総合司会に迎えまして、ボッチャやアンプティサッカーなどの障害者スポーツの体験やトークショーなどを開催しました。

右側、2番の障害者音楽フェスティバルですけれども、今回は初開催ということで、「かわさきパラコンサート」と題しまして、誰もが音楽を楽しめるように、点字プログラムですとか手話通訳のほか、体感音響システムといったものを導入しました。また、出演者側につきましても、ダウン症のリコーダー奏者の荒川知子さんですとか盲目のピアニストの梯剛之さんの演奏、また、障害者の方によるファッションショーなども行ったところでございます。

次に、もう1ページ開いていただいて、9ページでございますが、第2期ビジョンの冊子ということで、作成時に既に皆様にもお送りさせていただきまして、今回もお手元にお配りしておりますけれども、こちらの冊子は、写真や図、また、ロゴのオブジェなんかを

つくって、わかりやすい冊子を目指して作成をしました。

また、これは全国初の試みなんですけれども、冊子にQRトランスレーターというものを使いまして、表紙に掲載されているQRコードをスマホですとかタブレットで読み込むことで、文字の音声読み上げというのをしてもらえるものです。そのほか、13言語の翻訳ができるシステムでございまして、このシステムを導入することによって視覚障害者の方への対応を可能としたほか、新たに多言語版の冊子を作成することなく、この1冊で外国語への対応を可能としたところでございます。

次に、4番、プロモーション動画ということで、昨年度、ロゴをつくったときには、アニメーション動画というものをつくりましたけれども、今回、第2弾の動画としまして、実写版の動画をつくりました。作成した際に、皆様にメールでご案内をさせていただきましたけれども、まだごらんになっていただいている方、新任の方等いらっしゃいますので、本日、こちらの動画を、4分ほどになるんですけれども、改めてごらんいただきたいと思います。奥のスクリーンのほうをごらんいただきたいと思います。

では、お願いします。

(映像上映)

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

ということで、優しさの連鎖みたいなものをテーマにしたものでございまして、今の4分物はホームページ、ユーチューブ等で公開しておりますほか、30秒のバージョンもつくりまして、アゼリアですとか各区役所などで流しております。今後、市内の小中学校の総合学習の時間などでの活用を進める予定でございまして。

次に、9ページの右側、5番でございますけれども、啓発用グッズということで、①販売用グッズということで2種類です。モバイルチャージャー、それから、市内の地域活動支援センターで障害者の方が刺しゅうを行った、今治製のハンドタオルの2種類。それから、②配布用グッズとしまして、本日皆様にもお配りしております、「パ」のロゴのクリップ、それから、まだできていないんですが、来月にはばんそうこうですとか、年明けにはピンバッジができて上がる予定でございまして。

6番、その他でございますけれども、市民祭りや区民祭、多摩川マラソン等に、かわさきパラムーブメントの説明用パネルによるブース出展をして、物品販売なんかも実施しています。また、小学校の総合的な学習の時間の中で、パラムーブメントの授業だったり、あるいは、商工会議所の異業種交流会、中小企業同友会、町内会連合会などによって、我々

オリパラ職員によるパラムーブメントの講演会、説明というものを、さまざまな場所に出かけて行って、積極的に出向いてお話をさせていただいているというところでございます。

駆け足になりましたが、私からの説明は以上でございます。

【福田市長】

補足的に、土岐さんと多田さんからご説明をいただくという形でいいですか。

それでは、事務局からもありましたけれども、2番のインクルーシブなカワサキハロウインの開催について、土岐さんから報告をいただけますでしょうか。

【土岐委員】

お手元の資料でご説明します。

カワサキハロウインは今年で22回目でした。去年、21年目で初めて、台風が直撃してパレード中止という経験をしたんですけれども、それは逆にすごくいい経験になりました。2年ぶりのパレードということもあったので、スタッフも気合いを入れて、参加者もすごく楽しみにしてくださっていて、当日は天気にも、メーンは2日間なんですけど、恵まれて、華々しくできたかなと思いました。

3年ぐらい前から、障害のある方、参加したい誰でも参加できるハロウインを目指そうということです。環境づくりを我々のほうでできる限りやろうということで、資料右上にロゴがありますけど、こちらはピープルデザイン、須藤さんのところに全面的にご協力をいただいて実施いたしました。

ここにある写真は、メーンのキッズ・パレードとハロウイン・パレード、土曜日と日曜日のイベントの写真なんですけれども、それ以外にもいろいろなところで、ケアというか、環境づくりみたいなことをやったんですけど、とりあえず概要をご説明します。

1ページ、めくってください。

参加という定義というか、どういうことかという、まず、スタッフとして参加する、就労体験みたいなことがあります。もう一つは、一般のパレードに参加する、楽しんでいただくという参加です。その両面の報告書になっています。

1番がキッズ・パレード、10月27日、土曜日に実施しました。就労体験の参加者が全部で45名いらっしゃいまして、これは障害当事者29名と職員の方、スタッフの方が16名ということです。実際のパレードの参加者は、一般公募したんですけれども、結果としては1組だけです。キッズ・パレードというのは小学生以下と保護者で参加するので、1組2名というのは、1人が障害のあるお子様で、それと保護者の方ということで、実は

事前に3組6名、申し込みがあったんですけど、体調不良で、残念ながら参加できなかったということです。

開催概況のところをちょっとピックアップしてご説明しますが、まず、就労体験では、キッズ・パレードの随行警備、子供たちの周りを囲んで、一緒にバリアになってもらうみたいな警備です。あと、露払いというか、先導していただくとか、あとは、お菓子を配ったり、そういったことをやっていただきました。

当日は、身体・精神・知的障害者、あと、ひきこもりの方に社会に出るきっかけをつってもらいたいな、あと、ホームレスの方などが参加してくださっています。後で写真で説明しますが、先導した方の中には、視覚障害でつえを持って先導していただくみたいな方もいらっしゃいました。

おおむね好評でした。スタッフとしての参加者のコメントなどは、後ほど、別のページでご紹介したいと思います。

2番がメインのパレードで、10月28日、日曜日に行いまして、ここでの取り組みとしては、まず、新しい取り組みとして、「暮らしの保健室」というサポートのブース、これは何かというと、何かあったときに対応できるように、お医者さんと看護師の方にいていただいて、あとは、障害のある方にたくさん参加していただいたので、何かあったときに相談できたり、対応していただいたり、けが人が出たら対応していただくとか、いろいろなことに対応していただく。特に当日、けがとかじゃなくても、日ごろの悩みもここで相談してもらえみたいな、そういった目的のブースを初めて本部に出しました。

あと、車椅子ユーザーのパレード参加者が30名いらっしゃって、そのうち付き添いが12名で、ダウン症のダンスチームが団体にチームで参加してくれて、これが全部で50名で、付き添いが12名ということで、実は今年初めて、盲導犬ユーザーのパレードの申し込みというか、これもピープルデザインさんのほうでご紹介いただいたんですけど、ぜひ参加したいという方がいらっしゃったんですけど、当日、体調不良で欠席になってしまって、これはちょっと残念だったなど。パレードに盲導犬で参加してほしかったなどというのはありました。

概況のところは、特に問題なくできましたということです。

次のページが、就労体験参加者の感想なんですけれども、幾つか拾って読みますが、2番目、適応したり対応したりする能力を自分が知らないだけで、持っているのかも思うことができた。20代の精神障害の方とか、子供たちがかわいく充実した時間を過ごすこ

とができました。30代精神障害の方。カワサキハロウィンというイベントが好きなので、スタッフとしてかかわれてうれしかった。これは30代のひきこもりの方ということで、皆さん、いい体験ができてよかったというような感想が多かったです。

次のページ以降は、当日の様子を写真で紹介しております。スタッフの方はこういう共通のビブスをしていただいて、事前の打ち合わせの様子とか本番の様子で、右下は、つえ、視覚障害の方を先導している様子なんかも紹介されています。

その次のページも当日の様子です。お菓子を子供たちに配ったり、子供たちは大変喜んでいただきました。こんな光景で、これはキッズ・パレードの様子です。

その次のページに、参加者の感想が出ています。これもちょっと長いので、幾つかピックアップしますが、まず一番上で、人混みが得意でないため、ふだんは参加しやすいイベントを選んで参加している。参加したほうが一体感があると思った。歓迎されている感じがよかった。

人混みの中、車椅子での移動は周りに迷惑かと思って、今まで観客としても参加できなかった。当日は場所や動線などの配慮をしていただき、とても助かった。歩行者とまざると目線、スペースとも異なるので、押しのけられる気分になりますが、今回はそういうこともなく、楽しめた。また来年も参加したい。

障害があってもできることをやりたいと思い、参加した。運営スタッフがよく下調べをしてくれて、当日もサポートが手厚く、感心した。

ちょっと下になりますけど、ハロウィン・パレードは毎年参加していたが、昨年、脳梗塞で倒れて半身不随となった。今年、初めて車椅子での参加となり、とても不安だったが、スタッフの皆様方の手厚いヘルプにより快適に参加することができ、とても感謝しています。

楽しかったというご意見が非常に多かったです。後ろのほうに、ちょっと厳しいご意見もありまして、要点は、パレードに車椅子で参加しているときに、観客から頑張れと声をかけられましたと。ただ、頑張れというのはちょっと違うんじゃないかみたいな、なるほどなど。いわゆる、健常者に頑張れと言わないのにどうしてみたいな疑問の声もありました。

でも、おおむね、参加してよかったという声が多くて、あとは、スタッフに対する感謝の声がすごく多かったので、スタッフは全面的にピープルデザイン研究所の皆さんにお願いしましたので、この場をかりて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

次のページ以降は写真で、ほんとうにとてもすてきな写真が多くて、ぜひごらんいただきたいんですけど、今年、車椅子自体をデコレーションして参加する人たちがすごくいっぱいいて、こういう参加の仕方もいいなど、見ていてほんとうにほほ笑ましいと思いました。あと、車椅子だけではなく、ダウン症の子のダンスチームもほんとうに楽しんで参加してくれていましたし、ハッピーなパレードになったんじゃないかなと思います。

ずっと写真が続いていますが、最後のページの写真になるんですけども、今回、参加するだけじゃなくて、見に来る方、来街者で車椅子の方とかベビーカーの人が、実は毎年、ものすごく多くて、沿道の方は、大人が立っちゃうと後ろは全然見られないという状況で、多分、今までパレードをちゃんと、小さいお子さん、ベビーカーの方とか車椅子の方は見えていなかったと思いましたので、今回、車線も6車線、規制したり、規制も結構大規模にできたので、スペースをかなりとることができたので、そこを何か所か、車椅子とかベビーカーの方専用という観覧スペースを設けました。その写真が最終ページにありますけれども、これはやってよかったなと思います。

あと、各所にインフォメーションブースを配置して、何か困ったことがある、これは外国人対応も兼ねたんですけども、7カ国語ぐらいに対応できるインフォメーションを5カ所に設けたり、あと、左下に、先ほどちょっとお話ししました、サポートインフォメーションですね。お医者さんと看護師さんに常駐していただいて、何かあったら即座に対応していただけるという環境づくりをしたり、もろもろやりまして、全然パーフェクトではないんですけど、いろいろな課題はもちろんあったんですけども、ただ、大きな事故、トラブルなく、おおむねうまくいったのかなという感想でございます。

あと、障害というあれではないんですけど、カワサキハロウィンも、ダイバーシティという観点なんですかね、LGBTの方にもフレンドリーなイベントというのを目指していまして、具体的には、この中に紹介していないんですけども、パレードの最後尾をプライドパレード的なものにしまして、ただ、エンターテインメントのイベントなのということと、私どもチッタが企画しているということもあって、映画にちなんだ隊列を1つつくって、それはLGBTをテーマにした映画をテーマにしたんですね。

ちょっとわかりづらいかもしれないですけど、「プリシラ」とか、「キンキーブーツ」とか、わかる人はわかるみたいな、ドラッグクイーンというゲイのショーガールをテーマにしたようなとてもすばらしい作品があるんですけど、それをテーマにして、トラックをハイヒールをモチーフにしたデコレーションをして、その後ろに、ドラッグクイーンがステ

ージに上がって、後ろをLGBTフレンドリーな人たち、大体100人ぐらいがこの趣旨に賛同して参加してくれたんですけど、そういった取り組みも実施しております。

パレードがメインなんですけど、実は一番報道されて、今、世界中に情報が拡散されたのが、残念ながらこの中に盛り込まなかったんですけど、ちょっと余談になっちゃうんですけど、仮装コンテストのグランプリをとった方が、実はとてもすばらしい仮装で、絵画をテーマにした仮装だったんですよ。

成田さん、審査員をやっていただいて、ありがとうございました。

その写真が今、世界中のネットをざわつかせています。ヨーロッパからアフリカまで行っていて、カワサキハロウィンという名前とともに、その写真が世界に出回っているというのは、すごくよかったなと思いました。

すみません、ちょっとだらだらと長い報告になっちゃいましたけど、以上でございます。

【福田市長】

どうもありがとうございました。須藤さんもありがとうございました。

それでは引き続いて、5番の「C o l o r sかわさき展」について、多田さんからご紹介いただけますでしょうか。

【多田委員】

おはようございます。文化財団の多田でございます。

資料の4ページに、「C o l o r sかわさき展」の開催、先ほどのご説明がありました。ちょっと補足をしたいと思います。

今週の金曜日から11月25日までの間に、「C o l o r sかわさき展」ということで、これは障害のある方、あるいは市内の特別支援学校の皆さんの、アート作品を展示するという取り組みでございます。

実は昨年も、F L A T展ということで開催をしております。というのも、私ども文化財団が、昨年からパラアートのモデル事業ということで市のほうから委託を受けて、今年2年目ということでございますが、昨年は、取っかかりの入札、契約準備などでちょっとおくれたんですね。作品の規模もちょっと少なかったんですが、今年はしっかり取り組んで、40人のアーティスト、正確に現在ですと44名のアーティストの方、それから、特別支援学校の生徒63名の方が参加していただきまして、都合107名の方が、「C o l o r sかわさき展」に作品を展示していただいております。

そういう面では、昨年、F L A T展、展示会とあわせてワークショップですとか交流会

などを行いまして、そのときに996名、約1,000名の方がご来場いただきました。今年は、昨年の経験に立ちまして、この期間を「Colors fair」ということで、期間中にはさまざまな取り組みをいたします。

ちょっと例を示させていただきますと、16日にオープニングの式典を行いまして、翌17日の土曜日には、アートや太鼓、ダンスのワークショップを行います。その日のお昼からは、心のバリアフリーを目指したコンサートも行い、音楽にも取り組んでいきます。そして午後からは、市長さんもお来場いただき、アーティストと来場者との交流会も行います。

18日の日曜日でございますけれども、「アートで広がる多様なつながり」ということでシンポジウムを行います。コーディネーターには、今日ご参加の小倉委員にもご協力をいただくところでございます。

22日には、アートディレクターのほうから作品の解説、そして、その夜には、今回、アート作品を入札方式で購入希望の方につなぐということを初めて行います。そういったところから、これはアートを通じての自己実現ですとか、あるいは、さまざまな自立支援につながるという判断から、こういう取り組みも新たにさせていただきました。そういう意味では、22日の午後、パンフレットもございますけれども、「福祉施設のものづくりとその魅力」ということで、さまざまなグッズを製作する際の企画、それから販売、施設の職員の方向けのワークショップなども行ってまいります。

そして、23日はワークショップということで、切り絵、ライブイベントなどのアーティストも交えて、一連を取り組んでまいります。

シンポジウムの日には、高校生によります手話歌ですとかダンスイベントなども、盛りだくさんに行いまして、昨年ご来場の方を大変大きく上回る数の皆さんがご来場いただけると期待もしているところでございます。

今年初めて取り組んだポスティング、入札でございますけれども、参加者の方、ご来場いただいた方に、制度の説明を行います。ちょうど昨日、今回の参加作品の図録ができました。それぞれの作品の図録がありますし、また、ご来場いただいた皆さんが実物を見て、あらかじめアートディレクターによりまして、各作品の最低価格というのを設定させていただきました。それをもとに、ご来場いただいた方、ご購入希望者が、購入希望価格をつけていただく。それを入札、ポスティングしていただく。

その中の最高価格をつけた方とアーティストの方の、情報をつなぎまして、後日、商談

に持っていくということでございまして、この辺の価格の設定もアートディレクターの皆さんが、1号を1,000円、大体、作品は15号ありますから、1万5,000円を最低価格として、過去の受賞歴がある方ですとか、それなりの評価をいたしまして、最低価格の最高が今、7万8,000円の作品もあります、これは大変、これ以上に値段が入札システムで上がって、販路といいますか、そういう形に結びつけなければいいなと思っているところでございます。

簡単ですけど、私のほうからは以上でございまして。

【福田市長】

ありがとうございます。

これまでのところで、ご意見、ご質問はありますでしょうか。お願いします。

【小倉委員】

ちょっと追加でよろしいでしょうか。今の中で、実は11月18日に、シンポジウムを私のほうでコーディネートさせていただきますが、ここに出てくるチラシの裏の面に、どういう方が参加されるかというのを書いてあるんですが、実際に障害者とかかかわっている方ばかりなんです、いわゆるアートと、それから、運動とか、また、それ以外のこと、いろいろな視点から意見を言ってくれる方が当日、来られるということで、いわゆる、目で見える色の視覚的な作品とともに、どういうふうなつき合い方とか考え方で、これからバリアフリーということを考えていったらいいかというのを考えるのに、非常にいいきっかけになると思うので、ぜひ多くの委員の皆さんにもご関心を持っていただければありがたいと思います。

以上です。

【福田市長】

ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。どうぞ。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

ちょっと補足を。先ほど追加で配付させていただきました、A3判のこちらの資料でございすけれども、冒頭、市長からもちょっとお話がございましたが、この間、各委員さんからいただいたご提案ですとかご意見、それに対する進捗状況というのをまとめた表になってございまして、まず、表のつくりとしましては、「関連するレガシー」というのがあります。例えば1番で言うと、①②③というのが、資料の一番後ろ、8ページになります

けれども、推進ビジョンで9つのレガシーがございますが、関連すると思われるレガシーを書いてございます。

それから、委員名があつて事業名、提案の概要と、右側に進捗状況ということで、もし実施をしていけば実施、あるいは着手の時期等がございます、その具体の実施方法と、一番右には、具体的内容等が記載されているものになっております。

以上でございます。

【福田市長】

これは、皆さんから35の提案をいただいている中で、それぞれ、できているのか、あるいはできていないところも含めて、報告させていただくということでございます。

これは後ほどごらんいただいて、こういうことを改善できるんじゃないかということも、またご意見としていただければと思っております。

成田さんから、よろしいですか。

【成田共同委員長】

私は、カワサキハロウインの審査員のお話をいただいて、アプリを入れたんですけど、そのときにアンケートがあつて、あなたのお住まいはどこですかというのがあつたんですね。私は多摩区なんですけど、残念ながら、多摩区はなかったんですよ。川崎区、中原区とかはあつたんですよ。そうしたら、次は横浜市鶴見区へ行っちゃつたんですね。私、川崎市民なのに、それがすごく残念で、もうちょっと北部も盛り上げたいので、そのようなところからでも、一応、川崎市の区、全部は入れてほしいなということは感じました。お願いします。

【福田市長】

「C o l o r sかわさき展」のほうですけども、去年は違う名称で、FLAT展という形の名称でやって、素晴らしい作品がたくさんあつて、僕は瞬間的にこれを買いたいと言つたんですけど、買える仕組みがなかったということで、何とか買える方法を、オークションみたいなものはできないかという話をして、文化財団のほうにご協力をいただいて、こういう形をつくっていただきまして、ほんとうにありがとうございます。

やや、素晴らしい作品が過小評価されているのではないかという思いと、それから、アーティストの方がしっかりとした対価を得るといふのはとても大切なことだと思いますので、ぜひ私も入札に参加したいと思います。

お願いします。

【多田委員】

アートディレクターの方が、先ほどの受賞歴ですとか、作品の査定をして、つけるんですけれども、実は1万5,000円が最低価格なんですね。作品によってはもう少し、こういう価格でどうですかということを作者的の方に投げかけているんですけれども、その方たちの何人かは、売れるほうを重点にしたいので、買っていただける方を重点にしたいので、1万5,000円をお願いしますというふうに、むしろちょっと……。

【福田市長】

控え目なんですか。

【多田委員】

控え目な方も何人かいらっしゃったので、それはこの会場で、初めてになりますので、それぞれの団体はやっているところもあるんですけれども、一堂に会すということでは初めてになりますので、経験を積めばそれなりのポジションに、価格のポジションもどんどん上がってくるようにつながるんじゃないかなと思っています。

【福田市長】

山田会頭からも、この取り組み、なかなかおもしろいねというコメントをいただいて、会頭からも……。

【山田委員】

そうですね。おもしろいですね。一石二鳥、一石三鳥というか、つながって行って、非常にいい取り組みで、今、初めて聞いて、1万5,000円の最低価格で、7万5,000円とかあるという話だけでも、相当、この方々に励みになると思いますね。多分もっと、私よくわかっていませんけれども、高い価格で全作品が売れることを期待しています。

【福田市長】

ありがとうございます。

控え目というのは、売ったことがないという感じなんですかね。慣れていないという。

【多田委員】

それぞれの団体の中で、小規模に販売を行ってきたところもあるんですけれども、今回新たに、今までそういう経験がないところもご参加いただいて、やっております、ただ、売ったことがないことに対して、まだ自分の作品に対しての自信といいますか、経験が少ないのかなと思う方もいて、そういう方は、あるいは、自分の作品を離したくないということで、実は、作品を出していますけれども、販売希望がないという方も何人かいらっし

やいます。

【福田市長】

なるほど。

【多田委員】

それから、初めて参加した方というのは、自信がないのか、売れることを重視したいということで、下げたりとか、さまざまあるんですけども、それが回を重ねて日常的に、こういう制度なんだということを理解いただければ、購入者も、出展者も、それぞれミスマッチがないような形で広がっていくのかなという感想を持ってしまして、次回も含めて、研究したいなという思いがあります。

【福田市長】

ただ、この取り組みは、20の政令指定都市の首長会議の場で、今年の秋、こういう取り組みをやりますという話をしましたら、非常に皆さん注目をされていて、これはすばらしい取り組みだと。川崎の取り組みは非常に注目されているので、一回やってみて、改善点があればまた変えていくという、トライ・アンド・エラーでもっとよくしていくという形で、1回目をやってみるということなんじゃないかなと思っております。

これまでの取り組みで、ほかにご意見はよろしいでしょうか。ご質問など。どうぞ。

【中森顧問】

ハロウィンのところ、我々事業をやるときに、障害のある人たちのトイレとかそういったものは、非常にすぐに出てくるんですね。トイレがないとか、使いづらいとか、そういったことはどうでしたか。もともとちゃんと既成の車椅子の方が使えるトイレがある状態でされたのか、足りないから仮設をつくったのかとか、そういったところはどうなんですか。

【土岐委員】

主にパレードコースの中にある多目的トイレのある場所を事前に調べて、それを一つのペーパーにまとめて、先ほどちょっとお話ししましたがけれども、要所要所にインフォメーションを5カ所設けましたので、そこで、そういう質問があったときにはそのペーパーを渡せるような仕組みをつくりました。

【中森顧問】

わかりました。既設のところ、間に合ったということ、いいんですね。

【土岐委員】

そうです。既存のトイレを調べたら、川崎は結構あるんですね。そういう多目的で、民間と公共のものと両方なんですけれども、例えば、ラ チッタデッラの中にもありますし、あと、ホテルとか、商業施設の中とか、公共の多目的トイレというのを地図の中に全部示して、それをスタッフが配るような形をとって、やみくもに配ると、これはハロウィン特有の問題なんですけど、トイレで着がえをしちゃうので、だから、そういうニーズがあったときにはすぐそのペーパーを渡せるというようなことをスタッフのほうに周知してという対応に、あえて、その辺もピープルデザインさんの発案で、そういう対応にしようということをやったんですけど、特に問題なくできたんじゃないかなと。

【中森顧問】

それは逆に言うと、整備が進んでいるというか、そういう情報さえ与えれば……。

【土岐委員】

必ず近くに1つはあるんです。

【中森顧問】

わかりました。同様に、レストランとか商店のバリアフリーというか、アクセシブルというか、そういうのは何か情報提供できたんですか。

【土岐委員】

そこまではできていないですね。ただ、周辺の商店街とショッピングセンター全部が主催に名を連ねているので、必ず何らか全部の施設と店舗がかかわっていますので、バリアフリーの観点ではないんですけれども、それぞれのお店がハロウィンにこういうサービスをするとかこういうキャンペーンをやるという形で、町中が全部、何らかの形でかかわっています。

【中森顧問】

日本で、まちづくりで障害者が住みやすいというか、商店、ショッピングという観点で言うと、大分がすごく進んでいるんですね。毎年、車椅子マラソンをやって、海外から車椅子の選手がたくさん来て、町も車椅子の人が利用しやすい商店を、改装していったんですね。

この取り組みを聞くと、やっぱり障害のある人たちの参加を考えたときに、自然と市民、商店が自主的に障害者も利用しやすい施設、そういうふうな考え方を持ってもらえるのかなと思いました。だから、こういうきっかけというか、イベントを通してバリアフ

リーが進むとかそういうのにつながったらいいなと思いました。

【土岐委員】

そうですね。

【中森顧問】

もう1点、トイレのことで、きのうたまたま一緒に出ていた自民党の会議でちょっと言われたのは、レインボートイレはどうなんだと、東京に向けてそういう話が出て、LGBTの人たちのトイレをどう考えるんだといったときに、多目的トイレとか、誰でもトイレとか、そういうトイレをLGBTの人が使うと安全に使えるのかなということと、使い方については、ちょっとルールとか考え方を整理しないとだめかと思うんですけど、そういうことも考えられたらいいかなと思いました。

インターネットで見ると、大阪では、そのトイレの下にレインボーマークがついているんですよ。だから多分、LGBTの人は、ああ、使ってもいいんだと。でも、一般の人はわからないからというところをどう捉えていくのか。川崎のビジョンとかを見ると、やっぱり多様性というか、全ての人が豊かな生活というふうに書かれているので、そういったところも何かうまく考えていけばと思いました。

【福田市長】

ありがとうございます。ほんとうに大切な視点で。

どうぞ、須藤さん。

【須藤委員】

今のご指摘について、私が存じ上げている部分で情報を共有させていただきたいと思うんですけど、よろしいですか。

まず、冒頭お話しになられた、トイレがどうかと。それに対する、土岐さんがおっしゃった情報についてなんですけれども、カワサキハロウィンの特筆すべきすばらしい点があります。それは今、土岐さんがおっしゃった、いわゆる運用上、問いかけに答えられる準備を我々スタッフも、障害者のスタッフもしていました。と同時に、外部に有償で、いわゆるコーディネートされた、人材会社に頼まれていますよね、ケンさんとか。要するに外注されているわけですよ、アルソックさんとかパソナさんに類する。何社ぐらいに、外部に出されましたか。

【土岐委員】

3社です。

【須藤委員】

ですよね。大手の3社の、いわゆる誘導だとか、イベントの警備専門会社に発注をされています。その方々に対して、チッタさんは、そのオペレーションをあわせてされているようでございまして、私、存じ上げなかったんですけども、私の三男坊が、ケンさんという最大手の芸能イベントの警備をするバイトを、当日していたらしいんですよ、全国から集められて。そのディテールが、現場のいわゆる受託された警備会社が、アルバイトに対して個々に行っていたと。かなり細かく行っていたということで、鋭意徹底されていたという、これはとりもなおさず主催者のチッタさんが、さようなオペレーションをかかわる外部業者さんに対してされている。ここは、私が経験した、55歳ですけども、過去のイベントの中では初めてでした。これが1点。

それから、実は大分のイベント、私、参加したことが多々ございます。今、事務局長がおっしゃった、知識も持って参加しましたが、問い合わせたときに、正確にご案内されたことが一度もないんです。ハードはあれども、ご案内するという情報がどこまで行き渡っているかという、私が聞いた上では、事務局、あるいはアルバイトの方、どなたもご存じありませんでした。そういう意味では、チッタさんの今般のオペレーションには学ぶべき点が多いかなと。

並びに、2つ目のご指摘ですけども、例えばレストラン、飲食はどうかと。これは実は大塚さんがアクセシブル・ラボさんで、昨年、ぐるなびさんとコラボされて、非常にアクセスがしやすいお店というのを調査されていました。今年においては、その情報は我々のスタッフに伝えておりましたので、何かちょっと食べたいんだけど、車椅子で、あるいは目が見えないんだけどというお客様に、ご案内できるような情報は、現場のスタッフレベルでは一応周知をして準備をしておりましたが、お問い合わせは、たまたま今年については一件もありませんでした。

ただし、ご存じのとおり、ハロウィン10万人、皆さんも、釈迦に説法ですけども、障害者の構成比は直近の厚労省の数字で7%弱、昨年の内閣府の数字では850万人ですから約6.8%、6%か。この中で、身体障害者は45%、さらに車椅子ユーザーはと分析しておきますと、障害におけるサービス、お伝えしなければいけない情報はおのずと変わってまいります。この情報をどこまで、現場のストリートに立っているスタッフに徹底させるか、これはコストをかけて施設をつくる以上に、むしろそちらが重要ではないかなと思います。

最後に、要はLGBTに関する対策、トイレの対応ということで、まさにご指摘のとおりだと思んですけど、ご存じかと思いますが、北欧のみならずヨーロッパでは、どっちも入れる、かつ、個室の部分、大のほうは、ある種、男性も女性も、わからないというか、すなわち、どちらの性であっても。

ちなみに、一番新しい欧米のトイレの空間は全室個室と。入り口が1つで男女共用、全部個室と。これが一番新しい形ではありますので、これから、もし、2020を見据えて新たな投資でトイレをつくるとするならば、さような方法もありましょうし、現状のハードの中で個室の運用を、LGBT、どっちもオーケーと、女性、男性、その個室の扉に張っていくというような対応だけでも、おおむねクリアできるんじゃないかなと。

長くなって申しわけございません。以上でございます。

【福田市長】

貴重な情報提供をありがとうございました。

ほんとうにバリアフリー、アクセシブルの観点で、大塚さんやぐるなびさん、成田さん、また、「パ」のサインを広めていくということを、イベントなどを通じて、よりこういった機会に発信していきましようというのを広げていく取り組みを続けていきたいなと思っております。

よろしいでしょうか。ほかにご意見、ご質問はございませんでしょうか。

それでは、2つ目の議題でございますけれども、パラムーブメントにおけるレガシーについての資料をごらんいただきまして、事務局から説明をお願いします。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

それでは、資料の10ページをごらんください。資料2でございますけれども、「かわさきパラムーブメントにおけるレガシーについて」ということで、今年3月に第2期推進ビジョンをつくりましたけれども、このレガシーの形成に向けまして、まずは庁内の各部署が連携して推進するための体制を整えていこうということで、9つのレガシーごとに関係管理職をメンバーとするレガシー検討会というものを設置いたしました。

この検討会では、レガシーが形成された状態というのは果たしてどんな状態なのかといった点について、できるだけ掘り下げまして、レガシーの共通認識を持った上で、まずは現状を把握し、その上で、何をどのようにしていけばよいのかという検討を行っています。

2番の現在の検討状況でございますけれども、パラムーブメントの目指すものや理念を踏まえた、①から⑦の多様性と社会的包摂に関するレガシーについて、現在の検討状況を

申し上げますと、まず、レガシー①でございますが、「多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち」で、四角で囲んだ部分は、ビジョンでも定めているレガシーが形成された状態なんですけれども、その下は、検討する上でのポイントになっています。

学校におきましては、これまでも共生社会に向けた教育に力を入れてきておりますけれども、パラムーブメントの考え方をわかりやすく解説した教職員向けのリーフレット、実はお手元にもお配りしておりますが、こちらのA3の「かわさきパラムーブメント」と書いてあるものを、教育委員会さん独自で作成して教職員の方に配付をしているといったようなことがございます。こうした取り組みによりまして、子供たちの気持ちを育むというところまではある程度できますけれども、その先、子供たちの実際の行動・言動につなげていくにはどうしたらいいかという点をポイントとして、検討会で検討しているところで

資料右側の上に移りまして、検討会での意見をちょっとご紹介しますと、ある学校では、児童が点字のメニューをつくって、地域のお店に提供するといったことが行われているんですが、こうした特徴的な活動を積極的に情報発信していくといいのではないかとといったような意見が出ているところでございます。

次に、レガシー②「心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～」では、マイノリティーに対して、自分は関係ないと思っていたり、あるいは、その特性について知らないということ自体が心のバリアをつくっているのも、まずはお互いの違いについて、考えるきっかけをつくっていくことが大切という意見がありました。

検討会の意見では、「&HAND」、これは民間企業の大日本印刷様のLINEを使ったマッチングのツールなんですけれども、こういった具体的なツールを使って実践的な行動につなげていくといった意見、また、障害のある市の職員が窓口職場で勤務するということをする、市民・職員とも気づきにつながるんじゃないかといった意見が出ております。

レガシー③「社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～」では、例えば点字ブロック、これは車椅子利用者の方にはバリアになったりということで、ハード面だけで全てが解決できるわけではございませんので、互助を補完するものとしてハードのバリアフリーというものを位置づけまして、施設とか設備をいかに適切に使用してもらえるようにするかというところをポイントとしまして、検討会の意見では、エレベーターの優先乗車、あるいはエスカレーターの片側寄り問題、こうしたバリアフリー設備が適切に使用されていない事例につきましては、デザインの力といったもので自然に解決できるんじゃない

ないかというような意見が出ております。

次に、11ページをごらんください。

レガシー④「誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち」では、現在、各スポーツセンターで障害者スポーツデーなどを実施しておりますけれども、まず、いかに知ってもらって、体験してもらう機会をつくるかといったことをポイントに、検討会の意見では、さまざまな障害特性に応じることができる体験メニューの実施ですとか、その情報発信が大切といったような意見が出ております。

次に、レガシー⑤「誰もが文化芸術に親しんでいるまち」では、特に視覚や聴覚に障害のある方にとって、バリアになる場合が多いのではないかと。既に本市でも、音声サポート付きの映画上映などさまざまな取り組みをしておりますけれども、障害者の方がそもそもどんな文化芸術があるのか自体を知らないことが多いと聞くので、まずは知ってもらうきっかけが大切ではないかということのポイントに、検討会の意見では、例えば特定の日、市制記念日ですとかそういった日に市の施設を無料にするとか、障害特性にかかわらず、比較的多くの方が一緒に楽しめる文化というと食文化ではないかといった意見が出ているところでございます。

次に、レガシー⑥「多様な主体が地域づくりに貢献しているまち」では、行政、住民、企業等の各主体がパラムーブメントについての共通理解、それから、ボランティア文化や地域活動の広がりなどをどのように図るか等をポイントとしまして、検討会の意見では、ボランティア活動をした人を地域包括ケアの地区カルテに掲載することで、オリパラでの取り組みを地域づくりにつなげていくですとか、また、英国事前キャンプでのボランティアをはじめ、さまざまな分野のボランティアに参加された方などについて、ボランティア情報の一元化を図る、こういった意見が出ております。

レガシー⑦「誰もが職業等を通じて社会参加できる環境」では、単に法定雇用率の達成ではなくて、誰もが最大限に活躍できる環境づくり、こうしたものに向けまして、本市の障害者雇用ですとか民間の障害者雇用を促進する機能を一元化する仕組みについて検討し、検討会の意見では、既存業務からの仕事の切り出しを行って、障害者がどの部署に行っても活躍できるような環境づくりといったような意見が出ております。

今後、それぞれのレガシーにつきまして、さらに検討を進めて、より具体の取り組みですとか手法につきましてまとめ上げていく予定でございます。

説明は以上でございます。

【福田市長】

これは、川崎市役所の庁内における検討会議の意見ということでございますけれども、これについてのご意見、ご質問などをいただきましたら、よろしくお願いたします。

どうぞ、よろしくお願いたします。

【中森顧問】

以前から中森自身は、やっぱり運動の重要性というのをどんな場所でも言っているんですね。人間というのは動物で、体を動かさないと人間の機能は、基本的には老化する。老化をすると生活習慣病にかかったり、糖尿病になったり、その先に寝たきりであったり認知症、これは多分、運動不足が一番大きな理由かなと思っています。

4番に書かれている、「スポーツ・運動に親しんでいるまち」というふうになってはいますが、やはり運動、スポーツをすることで体を動かす、これを日常化につなげてもらいたいなと思うんですね。きっかけづくりはいろいろなところでやっている。障害者の参加も、先ほどのパレードなんかも障害者が参加している。障害者も含めたという中で、これはLGBTでも、マイノリティーの方、全部そうなんですけれども、全ての人が運動できる、スポーツできる、それを継続する、今度は継続のところに持ってもらいたいなと。

継続で重要なのは仲間づくり。だから、クラブとか、サークルとか、同好会とか、障害のある人たちがスポーツを、きっかけとして体験をしました、おもしろいなど。では、そのおもしろかったことを週に1回、2週間に1回、継続できる環境はあるかという、多分ないんですね。あとは自分で探さないと。やってみて楽しかったなど。でも、これを続けてやりたいんだというできない。できる環境がない。

スポーツ教室とか、多分、区のスポーツセンターはやっていると思うんですけど、これが多分、きっかけづくりなんですね。楽しさを経験する。スポーツのよさを経験する。それを日常的に継続するということに、やっぱり障害者の方というのはそう簡単にいかなないので、できればクラブ化まで持って行ってもらう。

例えば、区の体育館で車椅子バスケット教室か何かやりましたと。であったら、教室が終わった後、同じ時間帯に参加した人ができるような仕組みを、指導員1人でもつけて、クラブ化まで持って行く。そうすることでようやく4番の実現になるのかなと思っています。だから、その辺がちょっと我々の、全国的にもそういうのが薄くて、障害者がスポーツにかかわれるきっかけはいっぱいつくっているんですよ。でも、それを続けていないという。

川崎でやれば、逆にそこを、その先まで見てもらって、一番の利点は、障害者は今、孤立しているんですね。地域の学校に行くと、障害者がぽつんといて、その障害者に対して、いろいろな情報が入ってこないですね。親を通して入ってくるのか。昔は、古いときは特別支援学校で、車椅子の人たちは一緒に行っていた。そうしたら、学校が障害者のいろいろなことを教えてくれます。でも、ぽつんと行くと、ない。こういう人たちが多い。

そういう人たちに対して、やっぱりスポーツをやることでスポーツの仲間ができる。例えば途中で、交通事故で脊髄損傷になって車椅子になりましたと。この人はいろいろな情報を自分で探さないとわからない。でも、クラブに入ると、クラブの先輩が教えてくれるんです。川崎市に住んだら、社会的ないろいろな支援が手厚いですよと。あなた、ここに住んでいるのなら、川崎へ移ったほうがいいよということまで言うわけです。障害者に優しい町、優しくない町とやっぱりいろいろあって、住みやすい町というのは社会的ないろいろな支援が手厚いところ、そうでないところも、手当の仕組みをどうするんだとか、いろいろなことを先輩が教えてくれるんですね。

先輩は障害者の期間が長いから、成田さんの横にいれば、成田さんを見るわけですよ、すごいな、どうしたらできるのかなと。私も水泳で世界を目指したいとかというのは多分、成田さんはどういうふうにやっているか、ちょっと見えないけど、そういう人が多いですね、パラリンピアンで。要はパラリンピアンを見て、自分もそれになりたいと思ってやっていた人が多いです。

ということは、やっぱり仲間づくりをすると、その仲間の先輩がいろいろなことを教えてくれる。先輩を通していろいろな情報が入ってくる。そうになると、やっぱり日常化とかクラブ化というのは、そこまで持って行ってほしいというのが僕の個人的な思いです。

【成田共同委員長】

でも、実際、横島委員がいらっしゃるので、あれなんですけど、クラブはあるんです。水泳のクラブもありますよね。川崎市障害者スポーツ協会がPR用に作成したクリアファイルに川崎市の5つか6つぐらいの団体の紹介が、ありましたよね。なので、一応、そういうクラブは存在しているというのが現状です。

【中森顧問】

なるほど。

【成田共同委員長】

ただ、そういうものがここに書かれていなかったから、このような質問が出たと思うん

ですけど、なので、そういうスポーツクラブもありますというのをどこかで表記したほうがいいのかもかもしれません。

【福田市長】

まず、そもそもの実態を私どもあまり把握していないところがあって、今年度になって調査をして、今、それぞれの障害の方がどういう参加を、どんなスポーツをしていて、そのスポーツ人口がどのくらいあるのかというのを一回調べています。どこの施設でどんな活動をしているのかというのが、意外と今まで、全体的なことがよくわかっていなかったということもあるので、例えば、障害特性に全く合わないようなスポーツをご紹介します意味がないので、こういった方にはこのようなスポーツをしたらいかがでしょうかというのを、例えば特別支援学校だったり、いろいろな形で入り口部分を設けていくというのをこれからやっていきたいと思います。

既に菊地さんのところも、SELFでいろいろなことをやっていただいているんですね。ちょっとご紹介を。

【菊地委員】

ご指摘どおり、いかに、これは川崎の問題だけじゃなくて、全国的に水平展開していくか、そしてレガシーとして継続していくかというところは、最大の重要なポイントだと思っています。

私どもは今、インクルージョンモデルということで、健常者と障害を持った方々と一緒にできるようなスポーツを中心に事業を展開しておりますけれども、私のところは総合型スポーツクラブで、SELFというクラブを運営しておりますして、小学校、中学校をお借りして、毎週土曜日には、障害を持った方のダンス教室等々を3年間続けておりますして、この間も、実は中野にあります堀越学園、芸能人をいっぱい、タレントを輩出している学校ですけれども、あそこのダンス部の創立50周年に子供たちが呼ばれまして、大変立派なステージで踊らせてもらいました。

出ている方々は、現役生もOB生もみんなプロを目指した、大変すばらしいステージをやっている中で、ちょうど真ん中で15分間ぐらいですけれども、子供たちみんな踊って、実は学長さん、理事長さん、部長さん、みんな涙を流して、大変好評をいただいたところでございまして、こういった活動を毎週やっておりますして、少しずつですけれども、子供たちも増えていますし、保護者の方も楽しみにしてくれて、こんなことを実はやっているんですね。

私が今、感じているのは、障害者スポーツがパラスポーツということよりも、考えてみると、市長にも去年、おとし、おいでいただいご参加いただきましたけれども、卓球バレーとか、もちろんゴールボールとか、ボッチャだとか、さまざまありますけれども、これはむしろ総合型スポーツ、地域スポーツ、生涯スポーツとしての将来性が、もちろんバドミントンとか、卓球とかサッカー、野球、みんなやっていますけれども、非常に可能性が高いなと実は思っているところがございます。

当然、幼児から高齢者まで皆さんが楽しめて、どなたでも楽しめるスポーツとしては、障害者スポーツじゃなくて、生涯スポーツとして、これからの可能性を非常に大きく期待しているところがございますので、この辺は定番プログラムとして、もちろん、一般の健全の会員さんと障害を持った方が一緒にできるプログラムということで、今、そんなことを意識して、クラブでも15ぐらいのプログラムは、障害を持った方がいらしても、指導者がついて対応できるようなプログラムを一応用意して、まだ人数は少ないですけども、全体で1,300人ぐらいの会員さんがいらっしゃいますので、今、障害を持った会員さんが約40名は来ていただいて、日常、参加していただいている。

これはスポーツセンターなんかも今、スポット的にイベントでやっていますけれども、定期的に続けていきたいということでやっているところがございます。市内には11の総合型クラブがございますので、みんな一緒になって、共通のプログラムと共通の指導者を共有してやっていこうという動きはっております。

【福田市長】

ちなみに、ボッチャは比較的いろいろな方ができるので、ボッチャの市長杯をつくろうというので、今、準備を進めて、内部で調整を進めているところでして、そうするといろいろな人が、健全者も障害者もまざり合って、市長杯をやるという準備を進めているところですよ。

横島さん、すみません。

【横島委員】

ボッチャにつきましては、各区民祭ですとか、そういったところでも用具の貸し出しでオーダーが来て、かなり浸透しているところだと思います。市民祭りで、この間もターゲットボッチャという簡易なボッチャの用具を用意していたんですけども、子供たちが、ボッチャだ、ボッチャやろう、ボッチャやろうというところに来てくれているというのを考えると、それぞれ学校ですとか地域でボッチャが浸透してきているというところだと思います。

うんですね。

前にちょっと提案させていただいた、各区の代表が集まってみたいな話で、大会ができればというようなところだったんですけども、これだけ伏線ができていますので、すごくいいイベントができるような気がします。

それと、先ほどの各スポーツ団体のお話がありましたけれども、うちのほうでも、障害者スポーツ協会にはこういった団体がありますよという連絡先から何から全部一覧になって、それぞれ発信はしているんですけども、なかなか取っかかりができないというところで、障害者スポーツデーを実施しているところなんですけれども、やってみようという人が少ないんですね。

ただし、初めて来たけれども、すごく楽しかったから、もう少し頻繁にやってくれというようなご意見もいただいているところです。

【福田市長】

ありがとうございます。

大塚さん、お願いします。

【大塚委員】

今、出ている意見の中にすごく重要なことがあるのは、パラスポーツを興じるために、きっかけがないという方がものすごく多いのと、それと同時に、障害児の方は親御さんがいないと、競技場まで自分で、交通手段がないことによって、行けないということから、その障害者スポーツをやれないという状況があったりというのがありまして、例えばバスとかで行ければいいんですけども、それが全てノンステップバスになっていないことによって行けないとか、電車を利用できないとか、ひとりでは移動まではできないということによってできないというのを、私の耳にも入っております、あとはパラスポーツをやるための、水泳であれば身一つ、行けばいいんですけども、例えば車椅子バスケットになると、バスケット車が50万円以上は普通にするので、それを自分で買うとなるとそもそも難しいということもあるので、身体協のところでもあると思うんですが、貸し出しが何台ぐらいあるのかなど。

例えば私の住んでいる栃木県の中では、車椅子バスケットのバスケット車が県のスポーツセンターのところ、障害者スポーツセンターというところがあるんですけど、そこに30台あるんですね。それは民間企業からのスポンサーもうまく集めながら整備したというのがあります。ただ、車椅子バスケットが一応メジャーなので、それだけについたというだけなんで

すが、そのほかの競技もやりやすいように、参入障壁をなるべく下げるといふことの取り組みなんかがあるといいんじゃないかなと思います。

あとは、中森さんのほうからも出ましたように、スポーツをみんなやったほうがいいと思うんですけども、運動音痴な人もいますよね。運動嫌いな人もいるので、私の友人が、ゆるスポーツというのをやっております、一種の制限をうまくかけながら、誰でもできるスポーツをやりたいというのをやっております、そういったものを、例えば川崎市特有の資源であるとか産業を絡めたような形のスポーツ競技を、独自でつくるといふのもおもしろいかなと。ちょっとどこの行政区が忘れちゃったんですけど、ハンギョボールというのがある……。

【福田市長】

何ボールですか。

【大塚委員】

ハンギョボール。お魚を持ちながらハンドボールをやるんですけども、得点を決めちゃうとそのブリが大きくなっていっちゃって、さらに行動の制限がかかるというのがあるんですね。ルールはハンドボールなんですけれども、でも、ここに魚を持ちながらやるというものであったりとか、スポーツは何でも制限が一部かかるものだと思うんですね。サッカーだったら、手を使っちゃいけないという制限がかかる。足を使っちゃいけないというのがあるんだとすれば、バスケットもあるでしょうし、その中では、イモムシラグビーというのがあるって、皆さん下半身を全く使えない状態にして、ラグビーをやるという競技なんかもあるんですね。

そういったものを、川崎市主体で何か種目をつくっちゃうみたいなのができるって、一般の方も参加してもらいやすいし、パラスポーツとなると、まだ自分はできないかなとか、ちょっと運動音痴だからできないということもあると思うので、参加人数を増やすのであれば、僕も自分で住宅改修の仕事とかやらせていただいていると、病院のほうからお問い合わせが来るんですね。

実は3カ月前に事故に遭った方がいて、この方が障害者になってしまったので住宅改修をお願いしますというご依頼で来るんですけども、そこで僕が知っていると、情報もご提供できるし、住宅改修は仕事としてやらせていただきますけれども、スポーツはこういうものがあるんだよというふうに、僕が動けばそこでは情報を提供できているんですけど、そういったものを病院と連携するようなこともできると、未来を描くこともできると

思うし、障害者になってしまったけど、こういう楽しいイベントが川崎市にはあるんだとか、こんな新たなスポーツを興じられる場があるんだとか、交通機関が整備されているんだ、住宅が整備されているんだとなれば、住みたい人も増えてくると思うので、移住であったり、そういったところにもかかわってくるんじゃないかなと思っております。

【福田市長】

ありがとうございます。

最後の病院との連携みたいな話で、最近、市立病院の医師が社会的処方研究所というのを始めまして、それは、例えばクラブスポーツだとか地域の活動を、どんなことをやっていますというのを、ある意味、それを薬と見立てて、この方にはこういう処方がいいんじゃないかと、薬を処方するんじゃなくて、社会資源を情報提供しようというような取り組みを始めて、仲間づくりを今、やっているところです。

具体的に言うと、市立井田病院の医師なんですが、そういうので仲間を広げて……。

須藤さん。

【須藤委員】

ごめんなさい。先ほど土岐さんがお話しになった、「暮らしの保健室」というところも、まさに今、市長がおっしゃった、西先生がおやりになっているやつですよ。

【福田市長】

そうですね。そのような形で、今、大塚さんがおっしゃったような情報提供の仕組みのルートがあると、随分変わってきますよね。まだまだ、病院全体としてそういう体制になっているかという、そうではないので、そういうものを広げていくのも大きなレガシーの一つだと認識して、また、こういう中に加えていく必要があるかなと思います。ご指摘いただきました。

山田会頭、どうぞ。

【山田委員】

一言です。先ほどの新しい川崎のパラスポーツをつくろうじゃないかという話、おもしろいですね。これこそレガシー、ずっと続く、何か研究してみたいというか、おもしろいなという気がしました。

以上です。

【福田市長】

ほんとうに経済界と、何か川崎らしいものという、考えてみたいですね。

横島さん、大丈夫ですか。補足的には、よろしいですか。

【菊地委員】

すみません、ご参考までに、先ほどのお話ですが、川崎市は、先ほどご報告がありましたように、各スポーツセンターで障害者スポーツデーというのを去年から実施しております。当然、そこに備品等々が必要になってまいりますので、スポーツ室のほうで予算を組んでいただいて、今、スポーツセンター関係でバスケット用車椅子、大変高価なものですけど、10台を購入していただきました。

みんなで共有するということですが、あと、各センターからの要望でポッチャですとか、障害者用の卓球台ですとか、そういったものが徐々に整備されていて、まだまだ少ないんですけども、整備をして、スポーツデーとして定期的にご利用いただいているというような仕組みになっております。

【福田市長】

ありがとうございます。

栗山さん、学校で、これまでも障害の関係を、造詣が深いということで、教育委員会の取り組みなど、レガシーのところでコメントをいただければ。

【栗山委員】

レガシーということ言えば、やはり共生社会を構築していく人材の育成というところで、学校教育に期待されている部分は非常に大きいだろうなと思っておりますし、学校を預かる者としても、そこの推進に取り組んでまいりたいと思っております。

支援教育の推進ということで、学校でも、障害の有無にかかわらずさまざまな教育的ニーズのあるお子さんに応えていく体制づくりというのを進めておりますし、キャリア在り方生き方教育というところで、ともに生きていく、思いやりのある心を持った子供たちの育成という観点から、カリキュラム的にも計画的に取り組んでいるところでございます。

ちょっとお求めとは違うんですが、今までの議論を聞いていて、スポーツとなるといういろいろ制限もあったりして、障害特性によってはうまくできないお子さんも多いと思うんですけども、子供たちは休み時間とか、ほんとうに生き生きと遊んでいます。ボール1個あると、さまざまな遊びを考え出して、ほんとうに楽しく遊んでいるんですね。そこに、例えば年齢が違う小さなお子さんがいたり、障害のあるお子さんがいたりすると、柔軟にルールを変えながら、みんなが楽しめる状況をつくっていくというのは、子供はほんとう

に天才です。先ほどの新しい、ゆるスポーツみたいなものを考えるというときには、ぜひ子供たちにも投げかけていただいて、もしかしたら、スポーツというよりは日常の遊びの中から、おもしろい発想が生まれてくるのかなという思いもしているところでございます。

【福田市長】

ありがとうございます。

大分時間が来ているので、瀬戸山さんにも、次のおもてなしの事前キャンプのところで、ちょっとコメントをいただければと思うんですが、前に進めさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、資料3について説明をお願いします。

【藤原オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

それでは、東京大会における英国事前キャンプ受け入れに向けた取り組みについて、ご説明いたします。

資料は12ページをごらんください。また、あわせて、本日お手元にチラシを2種類お配りさせていただいております。クリアファイルの中に、後ろから3枚目、4枚目ぐらいい入っているかと思うんですけども、こちらの講演会のチラシ、それから、「2020年夏、川崎に英国オリンピック・パラリンピック代表チームがやってきます」という、2種類のチラシがありましたら、ごらんいただければと思います。

まず、12ページにお戻りいただきまして、英国チーム受け入れに向けた本市の取り組みでございますが、英国オリンピック委員会にかかわる取り組みといたしましては、(1)にございますように、今年の30年12月4日に、英国オリンピック委員会による講演会を開催いたします。こちらのチラシに詳細が記載されてございます。

こちらにつきましては、BOA、英国オリンピック委員会との契約に基づくレクチャーシリーズの一環として、BOA CEOのビル・スウィーニー氏を講師とする講演会、「ロンドン2012大会の経験を踏まえてリオ2016大会でのTeamGBの成功」というテーマで開催するものでございます。委員の皆様がもしご参加いただける場合には、お席をご用意させていただきますので、事務局のほうまでお申し出いただければと思っております。

続きまして、(2)英国パラリンピック委員会との取り組みでございますけれども、本年5月24日に英国パラリンピック委員会と覚書を締結いたしました。川崎市、横浜市、慶應義塾大学、英国パラリンピック委員会(BPA)の4者で、事前キャンプの実施に向け

まして、相互にパートナーシップを深め、協力していくことを確認する覚書でございます。
今年度末の契約締結を目指しまして、利用施設及び期間、事前キャンプの実施競技ですとか交流事業などにつきまして、調整を行っているところでございます。

下の表につきましては、現時点での英国代表チーム事前キャンプ受け入れ予定でございます。

事前キャンプの詳細につきましては、こちらにお配りしておりますチラシのほうにも、裏面に記載させていただいておりますので、ご参照いただければと思います。

続きまして、2番、広報・機運醸成の取り組みでございます。

まず1番目に、GO GBロゴの作成とございますが、こちらにつきましては、川崎市、横浜市、慶應義塾大学、英国代表チームを連携して受け入れるこの3者が連携した取り組みといたしまして、BOA及びBPAの協力を得まして、英国を応援する「GO GB 2020」ロゴ及び5者のロゴマーク等を配した合同デザインを作成いたしまして、今年10月に公表いたしました。資料の右側上のほうにあるデザインでございます。こちらの合同デザインにつきましては、IOC及びIPCからも承認をいただいております。今後、各種イベントなどで使用しまして、機運醸成や英国事前キャンプの周知に活用していく予定でございます。

続きまして、(2) GO GB 2020ウェブサイトによる情報発信でございます。英国事前キャンプ情報を効果的に発信するために、こちらにつきましても同じく川崎市、横浜市、慶應義塾大学の3者で、本年8月にウェブサイトを開設いたしまして、3者の基本情報ですとか事前キャンプ受け入れ施設の紹介、「ニュース&イベント」情報などを日本語及び英語で発信を行っております。情報も大分充実してまいりましたので、ぜひアクセスしていただければと思っております。

続きまして、(3) 市内各種イベントでの英国事前キャンプ紹介ブースの出展を行っております。今年度の広報の基本コンセプトでございます「英国を知る」に沿いまして、英国事前キャンプ受け入れの周知を図るために、本年8月25日のかわパラ2018を皮切りに、区民祭や市民祭りなどの市内イベントに英国事前キャンプ紹介ブースを出展いたしまして、チラシやグッズの配布とともに、英国選手応援メッセージやアンケートを書きいただいたり、かわさきパラムーブメントの紹介を行っております。また、当日の様子は、本市のウェブサイトですとか、(2)にございますGO GBウェブサイトにて発信を行っております。

また、本日、附箋とステッカーをお手元にお配りしております。こちらにつきましてはできたてのグッズでございまして、今後、さまざまなイベント等で配布を行いまして、事前キャンプの周知や機運醸成を行っていきたいと考えております。

今後の取り組み予定でございしますが、こちらにございますように、市内の各種イベントで引き続き、ブース出展を行うほか、来年度につきましては、事前キャンプボランティアの募集を開始してまいりたいと考えております。事前キャンプ受け入れに向けまして、着実な取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【福田市長】

ご質問、ご意見、ございますでしょうか。

お願いします。

【丹野委員】

英国の事前キャンプに関係するさまざまな取り組みがこれからあるということで、実は先日、慶應大学を会場にして行われた、イギリス代表チームのカヌーのコーチ等による講演会を聞かせていただいて、スポーツ協会の加盟団体にカヌーはないんですけれども、コーチングという観点からいうと非常に参考になって、おもしろいお話を聞かせていただきました。

ですから、このような機会に、ぜひとも加盟団体のさまざまな競技の強化という観点からも、こういう機会にいろいろなお話を聞かせていただいたり、あるいは代表チームの事前キャンプを見学させていただいて、ぜひとも競技力の向上につなげていけるといいなと感じましたので、また、このような機会には加盟団体にお知らせをして、参加をさせていただければなと感じました。

【福田市長】

ありがとうございます。

では、この席では唯一のオリンピックの瀬戸山さん。

【瀬戸山委員】

ちょっと質問なんですけど、キャンプは2019年は、イギリス・チームは日本で、川崎で合宿したりとかというのはあるんですか。

【福田市長】

19年。

【瀬戸山委員】

はい。来年ですね。

【藤原オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

テストキャンプ、プレ事前キャンプという形で、本番の2020年に向けて……。

【瀬戸山委員】

の前に、2020年はオリンピックの期間のちょっと前だと思うんですけど、それよりもっと先に、例えば川崎市とイギリス・チームとで事前に、2年間とか、もっと早い時期に来てキャンプを張ったりとか、天候が日本は非常に暑いので、いろいろなチームが、事前に日本の環境というのを体験したいというチームもあると思うので、そういったことはあるかどうか。

【藤原オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

今、BPA、英国のパラリンピック委員会のほうから、そういったプレ事前キャンプにつきまして、2019年度の打診はいただいているところでございます。また、詳細はこれから詰めていくところでございます。

【瀬戸山委員】

ありがとうございます。

せっかくイギリスのチームが来たり、指導者なんかも来られるので、今お話があったとおり、例えば川崎のとか、日本のチームと何か交流ができたり、それによってさらに日本のチームがもっと強くなったり、せっかくなので、川崎のスポーツに携わっている方とのコミュニケーションを図れたり、親善マッチができたり、そのようなことがあったらすごくいいなと思います。

それから、せっかくグッズとかも、さっきの障害者の雇用とかそれと絡んだ、例えば知的障害者とかそういった作業所が何かこれに絡むとか、そういったものがさらにくっつくにより、こっちはGO GBですけど、パラグッズとしての、何となく意味合いとか価値が上がるのかなと感じました。

以上です。

【福田市長】

ありがとうございます。

お願いいたします。

【細倉顧問】

日本オリンピック委員会の細倉ですけれども、BOA、イギリス・チームは分析ですとかそういうところにすごく特徴がありまして、特に戦略的に競技力を向上させるということで、投資という概念を持って、いろいろな競技のほうに選手強化費を配分しているという形が多い国です。

イギリスの競技力の戦略とかというのは、日本、JSCの下のJISSという、スポーツ科学センターが非常に研究をしております、そこにいろいろな分析、イギリスのやつを学んで、日本に生かそうという研究者が非常に多い形になっていまして、その力をかりて日本チームは今、いろいろなトレーニングだとかいうのを育てています。

JOCにはナショナルコーチという人たちがいまして、各競技に、それぞれ国の委託を受けて、専門的なナショナルチームをコーチしていく選手がいるんですが、その方々と、例えば今、来たBOAの専門家の方々と一緒に会わせて、そこで競技力について講演を、聞かせていただくとか、いろいろなことができるかなと思います。それは川崎だけじゃなくて、日本にとってもものすごく大きく、いいことになるのかなと思います。

もう一つは、先ほど出ました事前キャンプの来年の話ですが、私どもは今度、逆に言うのと、普通、海外の大会でやるときには選手団を派遣している国になりますので、そうすると必ず1年前には、開催地を視察にコーチを連れていきます。それは、気候もそうですし、風土もそうですし、どういう人たちなのかという部分があるのと、事前キャンプをやったときに、要は事前キャンプの目的というのは、コンディションを整えて、選手が一番いい状態で大会に参加できるような形にしますので、その計画づくりの中で、どういう形で地元の人たちと触れ合える機会をつくれるのかというのを探りに行くんですね。

事前キャンプをやっているときは、できるだけ選手については邪魔しないでくれと。ここで何のために事前キャンプをやっているのかというのは、その部分が中心ですので、その中で、うまく地元との触れ合い、それから、そういったものにつなげていくというのをやるためにも、おそらく来年、選手、チームだけではなくて、それを取り巻く世話をす人たちには来ていただいて、できれば事前にお話をしていたほうがよろしいのではないかなと思います。

【福田市長】

貴重なご意見で、ありがとうございました。

事前キャンプのボランティアはいつから募集するんですか。

【藤原オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

現在、BOAのほうと調整中ではあるんですけども、来年度のできるだけ早い時期から募集開始をしたいと考えてございます。

【福田市長】

そういう意味では、現時点では、パラリンピック委員会加盟の各競技団体のところにBPAのほうからお声がけをして、夏、大変暑いですから早目に見ておいたほうがいいですよという話をしているので、どこまで来られるかというのは、まだ調整中ということなんですけど、それに合わせて受け入れ側の準備も、瀬戸山さんおっしゃっていただいたように、前々で準備をしていったほうが、受け入れ側としては、20年でいきなりトラブったなんということになったらとんでもないことになっちゃうので、なるべく19年のときに対応できるように、早目早目の取り組みを準備したいなど。

【瀬戸山委員】

来年ちょうど、リハーサル大会が国内で全部行われますので、そこも踏まえて、いろいろな方が、来年は今年以上に国際大会が日本で開催されますので、ラグビーもありますし、バレーボールもちろんありますし、ビーチバレーも、川崎には拠点センターがありますし、そういった意味では、いろいろなチームが日本に事前に、試合にも来ますし、キャンプにも来るので、準備はいろいろなことができるかなと思います。

【福田市長】

ありがとうございます。

お願いします。

【中森顧問】

ちょっと観点が違うんですけど、我々、選手団が海外へ行ったりすると、その国の小学校とかそういったところが、学校訪問してくれとかそういう話があるんですけど、せっかくイギリスと事前にできているので、学校を、要は大会が終わった後、選手は自由に動けると思うので、そういうことをつなげていくということと、逆に、つながった学校がグレートブリテン・チームを応援するとか、そういう取り組みをやっていくと、チームはより積極的に、川崎ではお世話になって、川崎のどこかの小学校がうちのラグビーを応援してくれているとか、そういう仕組みをつくっていくと、選手と子供たちとのつながりができるから、そういうこともちょっと頭に入れられたらいいのかなと思いました。

もう1点は、パラのチームは結構いるんですけど、ホテルはうまいこといっていますか。

【福田市長】

いえ、それはこの提案のプロジェクトの中で失敗した点でして、中村委員からの提案があったものを、いろいろな方たちを巻き込んで調整をしていたんですが、なかなかうまくいかずと。

【中森顧問】

いいホテルはないと。

【福田市長】

はい。

【中森顧問】

わかりました。それはある程度わかっていて、どうかなと思っただけで、最新の東京2020の組織委員会で、IPC、国際パラリンピック委員会の事務局の責任者が、東京大会に向けて大きな課題が2つあると言いました。

1つは輸送のバスで、今までの夏の大会で言うと、車椅子が6台、7台入るぐらいの低床バスが、常に選手をベニューに運んでいるんですね。これが今、使えない。日本の法律で言うと、成田、羽田から高速道路で低床バスは走れない。要は、ベルトが使えないからできない。これを何とかしてというのが1つの課題ですね。

2つ目は、日本にあるホテル、今ちょっと出ましたけど、車椅子のアスリートは、ある程度の価格、1万円とか1万5,000円ぐらいで泊まれる車椅子のホテルは、20台、30台になるとない。今、政府が考えたのは、500室以上あるホテルで、車椅子の方が泊まれるアクセシブルルームが1室あればアクセシブル対応というふうになっていたのを、1%にしたようです。だから、100室で1室と。

だから、東京オリパラを契機にぜひ、川崎でホテルをつくるんなら、1割はアクセシブルのルームをつくらないと認めないとか、何かそういうのはできないのかなと。相手は商売だから、こういうことになっていると思うんですね。背景をいろいろ考えていくと、日本の社会というのは、やっぱりビジネスを中心に発展したから、ビジネスホテルとかと言っているじゃないですか。それがホテルの主流で、要は狭くて、ビジネスマンにとって快適で、障害者にとって、遊びとか旅行で快適かという、探さないと出てこないし、ホテルによっては1室、2室しかないから、常に確保できない。

こんな状況が続いていて、みんな不便を感じながら、成田さんも多分、国内の大会、合

宿とかしているんですよね。だから、その環境を何とか、こういう場であるからちょっと言っているんですけど、視点に入れて、何かできないかなという提案です。

【福田市長】

ありがとうございます。

大塚さん、補足的に。

【大塚委員】

おっしゃるとおりで、ほんとうにホテル探しはものすごく大変なんですよ、成田さんね。私自身もホテルの問題は、パラムーブメントに参加させていただいてからもお話しさせていただいていますけれども、東京がこの前、小池都知事がお話しになって、バリアフリー法改正に向けてのところの動きで、来年2月に議会にかけて、承認されれば、来年8月か9月ぐらいから新設されるものと、あとは、1,000平米以上の増改築をするところについては義務化するという形の判断をしたわけなんですけど、ちょっと残念なのは、今からやっても遅いというのが正直なところで、大体1,000室ぐらいのホテルを建てるとなると、工期2年ぐらいになるんですね。

という、今からやっても間に合わないというところなんですけど、最低でも、中森さんがおっしゃられたように、既存のホテルとかが少なからず増改築するときには、川崎市内ではそういった条例とかが、それはレガシーとして残ればいいことだとして、オリパラに本来は間に合ってほしいですけども、間に合わなくても、その後、オリパラ後に川崎を訪れる方が、何てアクセシブルな客室が多いんだということになれば、さらに観光で来ていただける方も増えると思うので、ぜひその動きはしていただければ大変ありがたいなと思いますし、あとは、専用ルームをつくる必要はないと思うんですね。

僕は、あくまでも対応すればいいんだと思うので、海外のホテルとかへ行きますと、シャワーブースがあって、アクセシブルルームになると折り畳みの椅子がばたーんとあるものがほとんどなんですよ。それがあって、僕らはバスルームを使えるようになるんですけども、バスタブがあるタイプとないタイプが選べるようになっていまして、日本人ゆえにバスタブを選ぶところがあると思うんですけど、実際、皆さん、ビジネスホテルへ泊まられて、バスタブを利用されますかね。

しないですよ。中に普通に入って、シャワーを浴びちゃって終わりだと思うので、シャワーブースで僕は事足りるんじゃないかなと思っていて、実は、私の自宅をモデルルームにしているんですけども、そこはバスルームを設けなくてシャワールームを、実際、

原さんにも見に来ていただいたんですけれども、うちのパッケージをいろいろなビジネスホテルさんとか、あとは、シティーホテルさんとかにも適用できるんじゃないかなと思うので、ぜひそういった事業者さんにも、今、どんどん来ていただいているんですけれども、関係のある課の方がいらっしゃれば、ぜひうちにも見に来ていただければ、どういった形でつくれば低コストで上質な感じで作れるかというのもお見せできると思いますので。

【中森顧問】

ホテルの水回りは多分、ビジネスホテルのようなものであれば、ユニットでも型が決まっちゃっているんですよ。既製品を買ってきて、それに当てはめる。だから、今言われたのであれば、新たな既製品というかユニットを、障害者アクセシブルのビジネスホテルの水回り、ユニットバスというか、そういうのを開発しないと多分、広がらないと思います。

こういうふうにつくったらいいというのは、個別につくる場合はいいんだけど、でも、ホテルでつくるといって、やっぱり水回りはユニットでやっちゃっていると思うんですよ。型をまずつくって、それを持ってきてやる。だから、新たなユニットをアクセシブルなものにつくるような、川崎にはいろいろ企業があるから、そういうところと、リクシルとかあればいいのかなとか。

【須藤委員】

たびたびすみません。リオも、ロンドンのときもどうだったかというところをちょっと振り返ると、基本的に、圧倒的にAirbnb、カウチサーファーという、いわゆる民泊ですね。ないものをどうつくるかという議論も大事な一方で、あるリソースをどう使うかというのも非常に重要だと思っていて、また、アスリートその人に注目するだけではなく、圧倒的に、それをごらんになるためにいらっしゃるハンディキャッパーもかなりの数になるわけですね。

というときに、例えば今からできる、条例とは言いませぬけれども、ローカルルールみたいな形で、ご高齢の方のご家族をお持ちの既存の市内のご家庭というのは比較的、そもそもがバリアフリーな対応を既にされているおうちも多いと思うんですよ。こういった方々に、いわゆるホームステイといいますか、民泊みたいなことで、要は、既存の住民の皆さんに手を挙げていただいて、こういう国、こういうだけの件数がある、ホームステイだと。よかったらいかがという情報を、かわさきアプリその他、既存の公費をかけて投じたツールがあるじゃないですか。

ここら辺の情報ツールに集約をして、そこから世界に向けて、こちらをごらんくださいと多言語で発信するという事で、アスリートのみならず見に来るお客様を川崎に誘致し、市民と結果的に交流させるシーンが事後的に実現する。結果、お金も落としていただけるといような、あるものを使って、本気でどうするんだということも考えれば、具体的にすぐできる要素というのは多々あるんじゃないかなと、お話を伺って感じました。

【福田市長】

ありがとうございます。スモールスタートでもいいから、そういうのは、やってみるといのはいいですね。

【須藤委員】

ぜひ事務局のセクションに取りまとめていただいて、年明けぐらいには、第1弾の企画ぐらいにはしたいですね、真面目な話。リソースはあると思うんですね。

【福田市長】

なるほど。ありがとうございます。

時間もそろそろ来ておりますが、何かご意見、どうぞ。

【山田委員】

時間がないところ恐縮ですけれども、先ほどのレガシーに戻るんだけれども、文化芸術ですね。川崎は岡本太郎美術館あり、藤子・F・不二雄ミュージアムありで、芸術のまちでもあるという視点から、先ほどのアートのオークションのことなんだけれども、すばらしいと思っていまして、これこそレガシーにできないかと思っていまして、例えば、今回開催した結果によると思っているんだけれども、事務局の方々に視野に入れていただきたい。要は、年1回ぐらいオークションを開催して、ずっと続けてやっていけないかということ視野に入れて、検討いただきたいと思います。

以上です。

【福田市長】

ありがとうございます。

どうぞ。

【大塚委員】

もう一つ。レガシーと、あと、主な取り組みについてだったんですが、エレベーターの優先表示の部分で、車椅子とか、妊婦の方とか、いろいろあると思うんですけれども、これはいろいろなところで見られるんですが、適正利用が全く進まないと思うんですね。

1つ提案としては、以前にどこかの地下鉄で、階段を上ると健康増進になりますよ、1段上がると何キロカロリー消費しますみたいな、どちらかという、利用しないでくださいというより、こうすると自分の健康にいいよみたいな、ちょっと今、見たら、ヒップアップにいいとかそういう自分によくなるもの、メッセージ性のあるものを添えてあるといいのかなと思って、それが、例えば障害当事者が描いた絵が添えられたり、そういうものでアートにも触れる機会を持ってくるとおもしろいのかなと、ちょっと個人的には思いました。

【福田市長】

ありがとうございます。

先ほど、レガシーの中で少し書かれていたのが、エスカレーターの片側に寄るというのをデザインでという話もありましたが、デザインの方でという、あるいは、物の考え方をちょっと変えてみるというのは大事かなと。

実は川崎区内でも、違法駐輪がすごく多かった場所に、下に子供たちの描いた絵をプリントしたものを張ったら、そこは駐車違反が圧倒的になくなってしまったという、それはデザイン効果というかそういうのもあるので、だめだめと言うのではなくて、今、大塚さんがおっしゃったような、いい方向に行動を変えていこうというポジティブなものにしていければなと思って、またいろいろなアイデアがありましたら、お寄せいただきたいと思えますし、私たちもしっかり考えたいと思います。

【中森顧問】

エスカレーターのこと一言だけ。やっぱりエスカレーターは基本的には歩かないというふうにしていかないと、障害のある人というのは、右に寄る人も、左に寄る人も、両方いるわけですよ。右にいと邪魔者扱いされる。それは非常に本人にとっては無意味というか、邪魔な人間と周りは思っちゃうんですね。そういうのはよくないので、もう歩かないということを川崎では取り組んでもらったらと思うので……。

【福田市長】

何度もやっているんですけど、これは何度もやって、強化週間なり月間みたいなものもやって……。

【中森顧問】

できないんですか。

【福田市長】

でっかいサインなんかもついたり、あらゆるやつをやったんですけど、全然、何かうまい方法ないかなみたいな。

【中森顧問】

でも、さっき少し言ったように、やっぱり日本というのはビジネスで来たから、ビジネスマンというのはほんとうに時間の勝負でやっているから、日本の地下鉄だって、鉄道だって、それなりに時間どおり行くから、ほんとうにぎりぎりでみんな生活している。そういう日常の空間で活用している人と仕事で活用している人、これが共存できていないというのが現状だから、やっぱり公共の施設は、家庭生活というか、地域の生活とか、そういうふうな意識を変える必要があるかなと思いますね。何か意識から変えないとは思いません。

【福田市長】

ありがとうございます。

それでは最後に、成田共同委員長から締めていただければと思うんですが。

【成田共同委員長】

私も最後、エレベーター優先表示についてはいつも思うんですけど、貼ってあるからいいと満足するんじゃだめだなと思いましたし、この間、下北沢の駅に行ったときに、エレベーターに乗りたい人は決まった位置に、電車に乗っているんですよ。電車があくともみんな流れるようにそこに行って、それが今の日本、ああ、これだと思ったんですけど、それを換えなくちゃいけないなというふうに、どうして私たちがほんとうに必要としているかを気づいても、やっぱり気づきだと思うんですよ。

だから、先ほど見せていただいた映像なんかでも、やっぱり一人一人の気づきで意識が変わっていくと思うので、そういう気づきって大事だなということを改めて感じました。

それでは、今日はこれで終わりということでよろしいでしょうか。

そうしたら、あとは事務局のほうにお任せします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】

ありがとうございました。

最後になりますけれども、議事録の内容等をホームページ等に掲載させていただきますので、追って皆様のほうに確認のメール等を差し上げたいと思います。

さらには、今日、取り組みの中で説明をした、モバイルチャージャー、今治ハンドタオルを本市で販売していますので、もしよろしければ、事務局に声をかけていただければ、

今日も買える状態でございますので、よろしくお願いいたします。

なお、次回につきましては、来年2月から3月ぐらいを予定しておりますので、また日程調整等をさせていただきますので、早目に調整をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

これにて本日のフォーラムを閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —